

大学生の林業体験を支援

平成25年8月～9月に、陸前高田市で、立教大学が実施した林業体験のフィールドワーク(第10回)において、参加した大学生の体験支援を行いました。

1 実施概要

(1) 支援内容

支援初日の枝打ち体験では、枝打ちの必要性や方法について説明を行い、体験の支援を行いました。(図-1)

2日目の間伐体験では、間伐の必要性や作業に当たって特に留意すべき事項等について説明を行い、安全確保を最優先にした体験の支援を行いました。(図-2)

伐採するスギの木の胸高直径が20cm以上で、ツルが絡んでいる場合が多く、間伐作業に時間を要しました。

ノコやナタを利用した経験が無い参加者が多く、作業当初は、道具を使いこなせませんでした。作業終了間際になると、ナタを上手く使いこなす参加者もいました。

2 継続した林業体験学習の必要性

参加した学生からは、林業に関する鋭い質問がありました。

主な質問は、間伐による密度管理の必要性とポイント、地域で林業関係の仕事に従事している人の割合と産業として成立しているかなどでした。

参加者の多くは、林業についての知識が殆ど無いようでしたが、地域における森林の役割や林業の産業としての位置付けなどに関心が高く、今回のような目的意識を持った林業体験の必要性を再認識するとともに、継続した取組みが必要であると感じました。



図-1 枝打ち体験



図-2 間伐体験(伐採した木の年輪を数える参加者)